

# 誤報を低減した侵入監視装置

関 明伸\* 新房健一\*\*\*  
橋本 学\*  
鷲見和彦\*\*

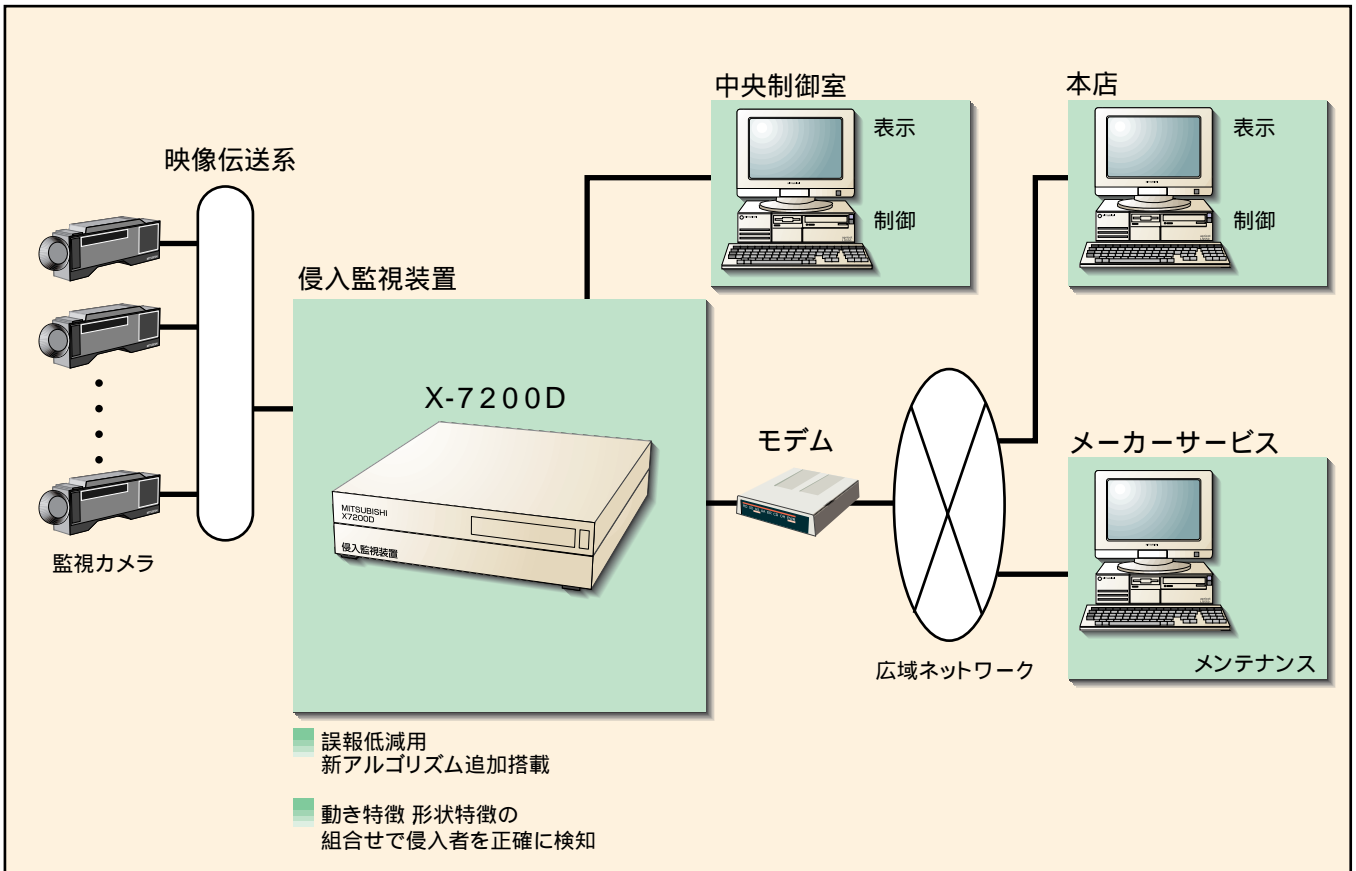
## 要 旨

誤報の少ない連続監視を実現する侵入監視装置を開発した。この装置は、監視員に代わって、監視カメラ映像にとらえられた物体の動きの特徴と形状の特徴から侵入者を判断して警報を発し、監視員にかかる肉体的・精神的負担を大幅に軽減するものである。

この装置は、画像処理によって監視カメラ映像の変化を自動的に検出するもので、その基本アルゴリズムとなる背景差分処理が正確な特徴量抽出を可能とすることから、屋内外の別を問わず、また昼夜兼行で、安定した信頼性の高い侵入者監視を実現している。しかし、ごくまれに、極めて短時間の明るさの変動を伴う事象、例えば監視範囲外からの一瞬の車両によるライトの照射、を誤認識してしまう

ことがあった。このような事象は通常時には予見が困難なため、現象が生じて始めて再調整が必要であることが判明する。

今般新しく開発した侵入監視装置X-7200Dは、このような急激な明るさ変動に対しても安定した動作を保証する新規アルゴリズムを追加した。これにより、従来まれに誤報の原因となっていた事象の90%を無視することが可能になった。さらに、監視システムに、より柔軟な発展性を提供する16ポジション対応機能やモデムを介した遠隔からの監視制御やサポート機能を搭載し、これまで以上にユーザーの広範なニーズにこたえられる製品となっている。



## 侵入監視装置X-7200Dを中心とした監視システム

監視カメラで取得された監視映像は、映像伝送系を通じて侵入監視装置X-7200Dへ入力される。侵入監視装置は、中央制御室の制御卓で、各種の設定、動作状況の確認が行える。一方、モデムを介した接続によって遠隔地においても監視状況のモニタができるほか、リモートメンテナンスの機能によって監視装置を常に最高性能に維持することができる。